

J-クレジット制度 排出削減プロジェクト 妥当性確認報告書

プロジェクトの名称：

A 重油貫流ボイラーから都市ガス貫流ボイラーへの更新プロジェクト

妥当性確認 機関名	ビューローベリタスジャパン株式会社
--------------	-------------------

発行日 2017年 3月 21日

1 妥当性確認機関の情報

※ 本項目は、J-クレジット制度認証委員会資料として使用されます。

※ 「判断の根拠」に関する項目については、根拠としたプロジェクト計画書等の章番号、該当頁等を記載するとともにその妥当性について記載すること。(以下、本文書を通じて同様)

機関名称	ビューローベリタスジャパン株式会社
プロジェクトの関係者との利害 抵触	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
判断の根拠	<p>プロジェクト関係者に対する利害関係がないことを、契約レビュー時にチェックシートで確認を行っている。</p> <p>担当審査員に対しては、妥当性確認業務の依頼時に、利害相反がないことを確認している。</p>

3 妥当性確認結果（総括）

※ 本項目は、J-クレジット制度認証委員会資料として使用されます。

妥当性確認実施期間		□プロジェクトの実施前 ■プロジェクトの実施後
プロジェクト名		A 重油貫流ボイラーから都市ガス貫流ボイラーへの更新プロジェクト
認証予定期間 ※実施要綱に定められた認証対象期間内に設定されていることを確認して記載すること。		2017年 4月 1日 ～ 2025年 3月 1日
適用方法論	方法論番号	EN-S-001 Ver. 1.1
	方法論名称	ボイラーの導入
想定排出削減量・想定吸収量	認証予定期間の合計値	3,168 t-CO ₂
プロジェクト実施者と合意した妥当性確認の前提	妥当性確認の基準 ※適用した制度文書類のバージョンを記載すること	文書名：実施要綱 Ver. 3.1 文書名：実施規程（プロジェクト実施者向け） Ver. 3.0 文書名：実施規程（審査機関向け） Ver. 1.2 文書名：モニタリング・算定規程 Ver. 2.7 (排出削減プロジェクト用)
	目的 ※プロジェクトの実施によって、プロジェクト計画書に記載された削減量・吸収量が実際に生じる見込みに対する評価を行うことも目的に含めて記載すること	プロジェクト事業者が作成したプロジェクト計画書に記載された情報が、その作成基準である実施要綱 Ver.3.1、実施規程（プロジェクト実施者向け）Ver.3.0に準拠しているかどうかを確かめるために、関連する証拠を客観的に収集・評価し、その結果を表明する。
	範囲 ※妥当性確認の範囲がプロジェクト計画書の範囲であることを記載すること	プロジェクト計画書に記載された情報。具体的には以下のとおり。山梨罐詰株式会社において、A重油貫流ボイラーを高効率の都市ガス貫流ボイラーへ更新する。ボイラーの高効率化により燃料使用量を削減し、またA重油よりも単位発熱量あたりのCO ₂ 排出量が少ない都市ガスへのエネルギー転換によりCO ₂ 排出量を削減する。
	保証水準 ※妥当性確認の結論を意見として表明する際に採用した水準を記	合理的保証

	載すること	
<p>妥当性確認手続</p> <p>※現地審査の実施有無について記載すること</p> <p>※また、実際に実施した手続、スケジュールについて、サンプリング手法も含めて記載すること</p>		<p>■現地審査を実施した（2017年3月3日に訪問）</p> <p>□サンプリングで現地審査を実施した（ 年 月 日に訪問）</p> <p>□現地審査を実施していない</p> <p>・妥当性確認計画の策定（2017年2月27日）</p> <p>・文書審査（2017年2月27日～3月2日） プロジェクト概要の把握、リスク評価 現地審査スケジュールの策定</p> <p>・現地審査（2017年3月3日）</p> <p>・妥当性確認結果の評価・報告書作成（2017年3月6～17日）</p> <p>・社内レビュー（2017年3月19日）</p>
<p>修正・指摘事項及び解決方法</p> <p>※4における結果を総括し、排出削減量又は吸収量に影響を与える可能性のある、主な指摘事項について記載すること</p>		<p>文書審査および現地審査の結果、以下の事項が発見された。</p> <p>・プロジェクト実施前に都市ガスボイラーを2基保有しているが、新規に都市ガスボイラーに更新する3基の稼働率が向上した場合の、既存都市ガスボイラーの蒸気発生量の代替分を考慮していなかったが、プロジェクト実施前の都市ガスボイラーとA重油ボイラーの蒸気発生比率で上限設定を行い、適切に修正されたことを確認した。</p> <p>・モニタリング分類Cであるが、モニタリングポイントである高精度型マスフローモニタの精度（±1%）が考慮されていなかったが、適切に修正されたことを確認した。</p> <p>・プロジェクト実施前後の高位発熱量ベースのボイラー効率に低位発熱量ベースの効率を採用し排出量が算定されていたが、適切に高位発熱量の効率に修正されたことを確認した。</p>
	確認結果	<p>■無限定適正 □不適正 □意見不表明</p>
<p>妥当性確認結果</p>	<p>意見・結論</p> <p>※4における結果を総括し、確認結果における意見の理由を記載すること</p>	<p>事業者が作成したプロジェクト計画書は、プロジェクト事業の要件を満たしており、プロジェクト計画書の誤りの合計値が重要性の基準値（5%）未満であることが確認された。したがって、全ての重要な点において適正であると認める。</p>